

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

① 絵の具 R6年4月15日 幼児クラス

施設番号	66-1441
施設名	府中緑町・学びの保育園
施設所在地	府中市緑町1-6-3
法人名	社会福祉法人育木会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

①様々な画材の紹介や技法を学び、経験を試みる。
画材に触れ感触を味わったり、変化していく様に気づく。
造形で表現する楽しさを知る。
友達と一緒に制作したり、表現する楽しさを知る。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
白百合女子大学の椎橋元気先生に来園いただくことが決まり、保育士からではなく大学の先生方から学ぶ経験をする。さわやかな気候の中、人工芝のテラスで絵の具を使って想像と創造を楽しむ。
園の特色→体験を大事にし、心の足腰を育む。

2. 活動スケジュール

プラカップ購入300こ
椎橋先生持参：ラップ、ラップ紙

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
絵の具(水性)、プラカップ60コ、ラップ(1ロール)、バケツ6つ、テーブル2台
絵筆、模造紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵の具の感触を知る。水に混ぜて変化していく状態を知る。
刷毛だけでなく、指や手のひら、足の指、足の裏などからだ全体を通して描いてみる。
バケツのような丸いもの。ラップを貼った壁やテーブル、床に敷いたビニールシートや模造紙に描く経験をする。友達の商品を見て楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
保育士は環境を整えるのみにとどめ、こちらからの働きかけをしない。
子どもが保育者のところへ来てしまったときは、お友達の魅力的なところを具体的に伝えて子どもの視線を子どもに向けるようにする。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

朝からアートの日を楽しみにしていた。活動が始まると自由に思い進めていた。始めは一人一人こじんまり描いていたが、時間が経つにつれて友達と一緒に同じ行動をする子、自分の世界に入って好きなように塗る子、手や足に描いたり保育者に書いたりする子、自由に思い思い楽しんでた。子ども自らの創造と想像を止めないように保育者の働きかけは最低限に努め、保育士のところに来てしまった子は子どもに視線も向くことができるよう、サポートした。